

# 24h365日受け入れのGHで 強度行動障害の方々と向き合う日々 そして地域のネットワークの大切さ

社会福祉法人はる 上田諭



ライフサポート

はる

Life Support HAL, SAGA

2022/10/25

# 基本情報

## 社会福祉法人はる

所在 佐賀県佐賀市

理念 私たちの願いは 障がいのある人たちが  
一人ひとりかけがえのない人生の主人公として  
生涯を通して 幸せに暮らしてもらうこと

沿革 2002年 福祉作業所ハルとして設立  
2006年 NPO法人ライフサポートハル設立  
2016年 社会福祉法人はるへ

事業 生活介護 定員20  
B型 定員20  
GH5棟 定員31（軽度3棟 重度2棟）  
ヘルパー事業  
短期入所  
SANC（アート中間支援）  
職員 54名（正職員32名 パート22名） 2022年3月時点



# 基本情報

## コンフォートながせⅠ、Ⅱ

2017年10月開所 5年目

2022年3月時点

入居者

### コンフォートながせⅠ

6名入居/7名定員 短期入所 3部屋

平均区分 5.7 年齢10代~20代

対象：主に重度の自閉症や知的障害のある方々

### コンフォートながせⅡ

7名入居/7名定員 短期入所 3部屋

平均区分 4.7 年齢20代~60代

対象：主に知的障害、身体障害のある方

加齢等に伴って身体機能の低下が見られる・予見される方

職員

常勤専従9名 パートタイム7名（夜勤・兼務）

夜間支援体制加算 1

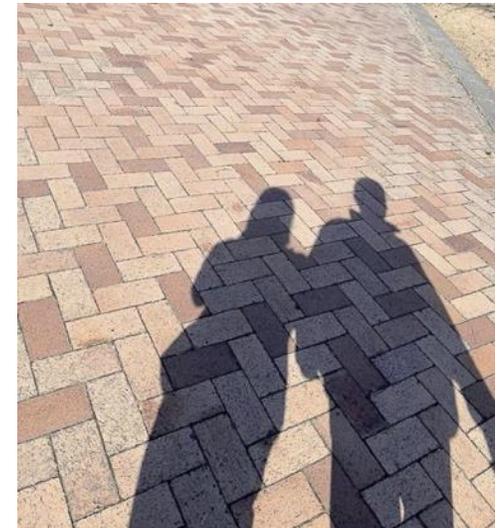
福祉専門職員配置等加算 なし

重度障害者支援加算 1 2

ほぼ全職員が強度行動障害支援者養成研修を受講

支援の組み立てや助言ができる中堅職員が不在

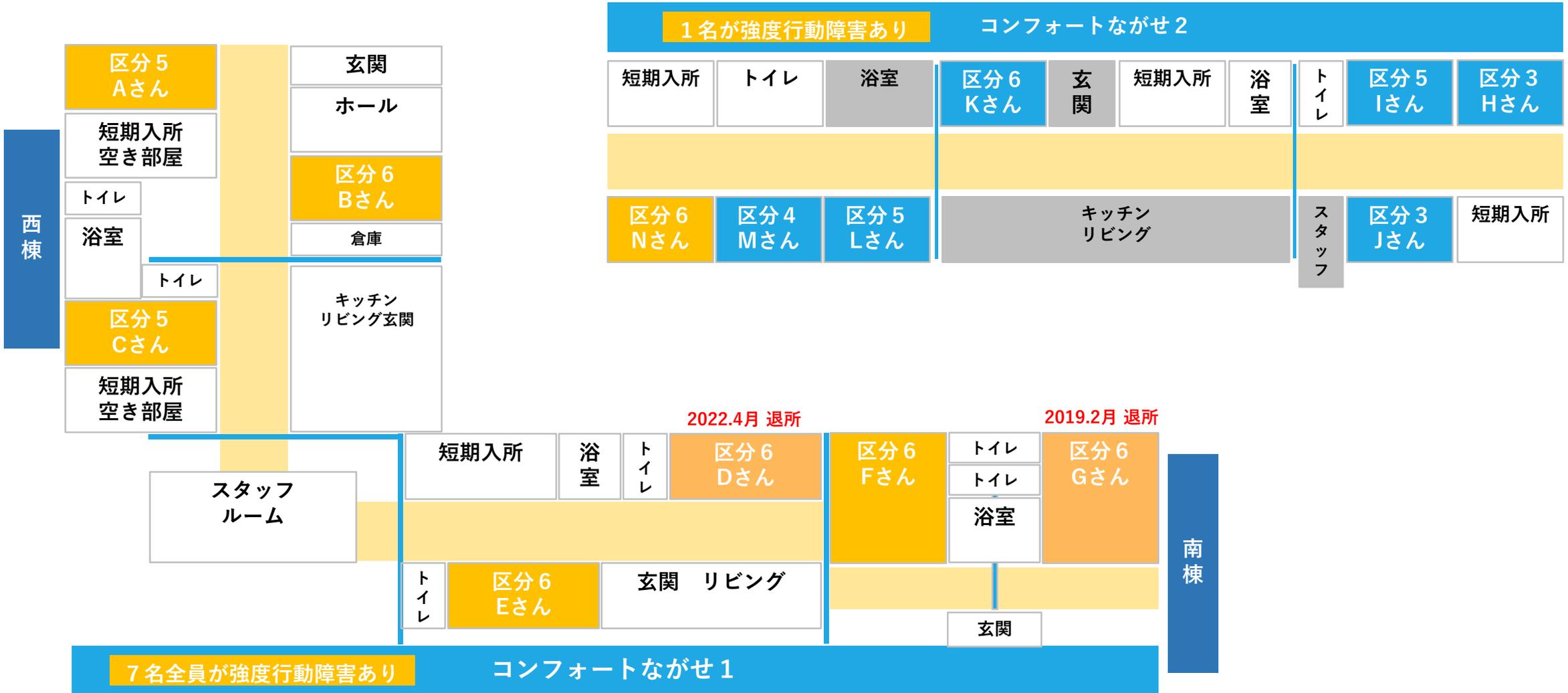
1~2年目の職員が中心となり支援



# 基本情報

## 居住スペースと強度行動障害対象者

2022年3月時点



# 令和3年度強度行動障害の人数調査の結果について

調査日：令和3年11月

調査方法：行動関連項目10点以上 or 強度行動障害判定基準20点以上

※精神科病院等入院患者は調査対象から除く

## 18歳以上の佐賀県内の人数

(1)	行動援護の支給決定を受けている方の人数	254人
(2)	重度訪問介護の支給決定を受けており、障害支援区分の認定調査項目のうち行動関連項目（12項目）の合計点数が10点以上の方	3人
(3)	重度障害者等包括支援の支給決定を受けており、行動関連項目（12項目）の合計点数が10点以上の方	0人
(4)	施設入所支援の支給決定を受けており、重度障害者支援加算（II）の算定を受けている方	507人
(5)	生活介護の支給決定を受けており、重度障害者支援加算の算定を受けている方	275人
(6)	共同生活援助の支給決定を受けており、重度障害者支援加算の算定を受けている方のうち、行動関連項目（12項目）の合計点数が10点以上の方	53人
(7)	短期入所の支給決定を受けており、重度障害者支援加算の算定を受けている方のうち、行動関連項目（12項目）の合計点数が10点以上の方	97人

(1)～(7)のいずれかに該当する障害者の数（重複除く）	890人
------------------------------	------

うち療育手帳を取得している人の人数	842人
-------------------	------

## 18歳未満の佐賀県内の人数

障害児通所支援	児童発達支援または放課後等デイサービスの支給決定を受けており、強度行動障害児特別支援加算の算定要件である「強度行動障害判定基準」20点以上の人	53人
---------	---	-----

障害児入所支援	障害児入所支援の支給決定を受けており、強度行動障害児特別支援加算の算定要件である「強度行動障害判定基準」20点以上の人	2人
---------	---	----

うち療育手帳を取得している人の人数	38人
-------------------	-----

うち療育手帳を取得している人の人数	2人
-------------------	----

**強度行動障害とされる方**

**佐賀県内には延べ928名**

**住まいの場として**

**507人/入所** 53名中

**53人/GH** 特に難しい方8名をはるGHで受け入れ

※精神科病院等入院患者は調査対象から除く

佐賀県障害福祉課

県内の強度行動障害の人数調査結果（令和3年11月）

# 強度行動障害支援 開設当時 法人の状況

強度行動障害支援開始 当時の法人の状況

理念

私たちの願い

障がいのある人や社会のすべての人たちが  
一人ひとりかけがえのない人生の主人公として  
その命が尊重され、生涯を通して  
地域のなかで幸せに暮らしてもらうこと

2014年~2017年

法人設立12年~15年ごろ 職員も増えて充実期に入る  
アートのモデル事業、海外研修や職員の懇親機会づくりなど  
支援以外の取り組みへも注力できる余力があった

関わり

全国地域生活支援ネットワーク  
強度行動障害支援整備について理事長ら尽力  
研修組み立てやテキスト作成に携わる

利用者

はるに関わっている利用者様にも  
困っている方や行き場のない方が複数名存在  
日々、自宅や学校での生活に苦慮している様子

一方で、他法人の代表の方からの心配

「この支援度の方々を複数名引き受けて大丈夫か？」

当時、はるは困った方を支えたい思いでがむしゃらだった

困っている方々を

はるが支えていかないでどうする

強度行動障害の方を複数名受け入れへ

# 強度行動障害支援 開設当時 法人の状況

## 強度行動障害支援開始へ 開設準備

### 研修

GH設立・入居準備に先駆けて 2年間  
普段の研修スケジュール+αで2015年から  
月2回全職員対象に研修を実施  
2年の研修と共に、設立・入居のために  
全国のスペシャリストの先生方の力を借りて準備を進める

### 配置

GH設立・入居に先駆けて  
職員の採用 40名→60名  
職員の異動 各部署のリーダークラスの職員を5名 GHへ異動  
リーダー 支援のコアメンバーとして半年間準備に専念する

### 建物

入居者の選定を経て、ご利用者の特性に合わせた建物を建築  
先駆法人の建物を参考に、検討を重ねる



## コンフォートながせの運営指針を定める

- 安心できる生活  
家庭的な雰囲気やあたたかい言葉を大切にし、どんな時もお本人の「命」を 尊重し、寄り添い、ご本人が望む人生を歩んで頂けるよう皆で協力し支えていきます。
- 健康的な生活  
清潔で快適な環境や、美味しい食事、健康管理、体力の維持・増進等を通して心も身体も健康に過ごして頂く事を目指します。
- 豊かな生活  
ご本人の楽しみや希望を一緒に考え、持たれている力を発揮し常に挑戦したいと思えるような場所を提供します。

# 強度行動障害支援 開設当時 法人の状況

希望に満ちた入居開始 そして大変さを実感する

2017年10月21日：入居開始      2018年1月30日：14名全員入居

指針	2年間準備した支援を実施。入居2ヶ月後。
体制	生活に少しずつ慣れてきた利用者様
研修	行動に変化が起きる（最初は些細な変化）
建物	

支援を組み立てられる人材  
組み立てられる時間  
助けてくれる人  
助けて ということ  
助けて に気づくこと

頼ることもできず  
自分たちでできるまで  
頑張ってしまった

行動の変化      支援の統一ができていないからだ  
不適切な行動      (適切な対応がわからなかった)

本人の状況や周囲の環境は変化  
必要な手立てが変わっていくことに気付くことができず

以後少なくとも3年間  
入居前に決めた支援のやり方を追い求める  
変えちゃいけない呪縛

# GH開設から4年半の経緯

## ざっくりと経緯

### 2017年度

11月 入居開始 3ヶ月で14名入居完了

3月 徐々に利用者様の行動が表出

気力で対応を続ける 疲弊

### 2018年度

5月 Gさん 肥前精神医療センターへ入院（1ヶ月）

8月 気力で対応を続ける 疲弊

11月 以後ミーティングが無くなる

支援の統一が難しく、問題行動を強化 疲弊

2月 Gさん 肥前精神医療センターへ入院（退所）

### 2019年度

4月 管理枠へ職員補充

5月 ミーティング再開

8月 大雨冠水災害対応 疲弊

### 2020年度

4月 リーダークラスの職員を3名を補充

ミーティングを3h/週 に設定

8~1月 台風、大雨、大雪 災害対応 疲弊

### 2021年度

6~8月 コロナ禍の影響でBさん、Dさんの行動が激化 疲弊

9月 Dさん 肥前精神医療センターへ入院（1ヶ月）

1~3月 コロナによる通所先の閉所・職員休

多数の検討案件が同時発生 疲弊

### 2022年度

4月 Dさん 肥前精神医療センターへ入院（退所）

強度行動障害の方の居住支援が存続していくために。  
抜本的な改善を始める

# GH開設から4年半 何が起きたか

丸4年経った時、コロナ禍が現場へ追い打ちをかける

2021年度 1月～3月 相次ぐコロナによる閉所・スタッフの欠勤

濃厚接触欠勤 体調不良 通所先突然の閉所 ⇒ 第一優先が支援枠のカバー

Aさん 外出の制限で毎週続く不穏。他害頻回。

Bさん 通所先の感染対策により1ヶ月通所無し。激しい他害。

Cさん スタッフへの激しいこだわり。他害頻回。

Eさん 検温、歯磨き、服薬等のリズムが崩れる。他害頻回。

Dさん 訴え多数 12月～2月 毎週建具破壊を伴うパニック。

Iさん 認知症の進行と排泄ケア。

Kさん 激しいてんかん発作が夜間に頻発。

Nさん 生活の崩れ。 頻発する不適切行動。

職員が疲弊

## 支援検討の渋滞

## 時間とスキルの

## キャパオーバー

# GH開設から4年半 何が起きたか

時間とスキルの  
キャパオーバー



実は開設当初から起こっていた  
コロナ禍まで4年間頑張り続けた

※結果的には

指針 理想を求めた

体制 待機交代薄

研修 沢山必要

建物 要改築

適切な支援の検討  
追いついていない

スタッフを動員しての  
問題行動への対応

サビ管・職員が疲弊

365日24h

支援検討  
労務管理

コロナ対応  
災害対応

一部署ができる限界を超える

事務的なことを考える余裕がなくなる

手を挙げてはいけない  
虐待が頭によぎる  
高リスク状態

※理念のもと、踏みとどまる

# GH開設から4年半 佐賀のネットワークに訴える

2021年2月18日 開設から4年半

そもそも、日常の維持が途方もない努力の上で  
成り立つ強度行動障害支援。

強度行動障害の方を複数名支える中で、  
当法人だけで24h365日支えるのは限界。

佐賀のネットワークに訴える。

ネットワークに訴状をあげる  
助けを乞う

強度行動障害を支えることの大変さを知る

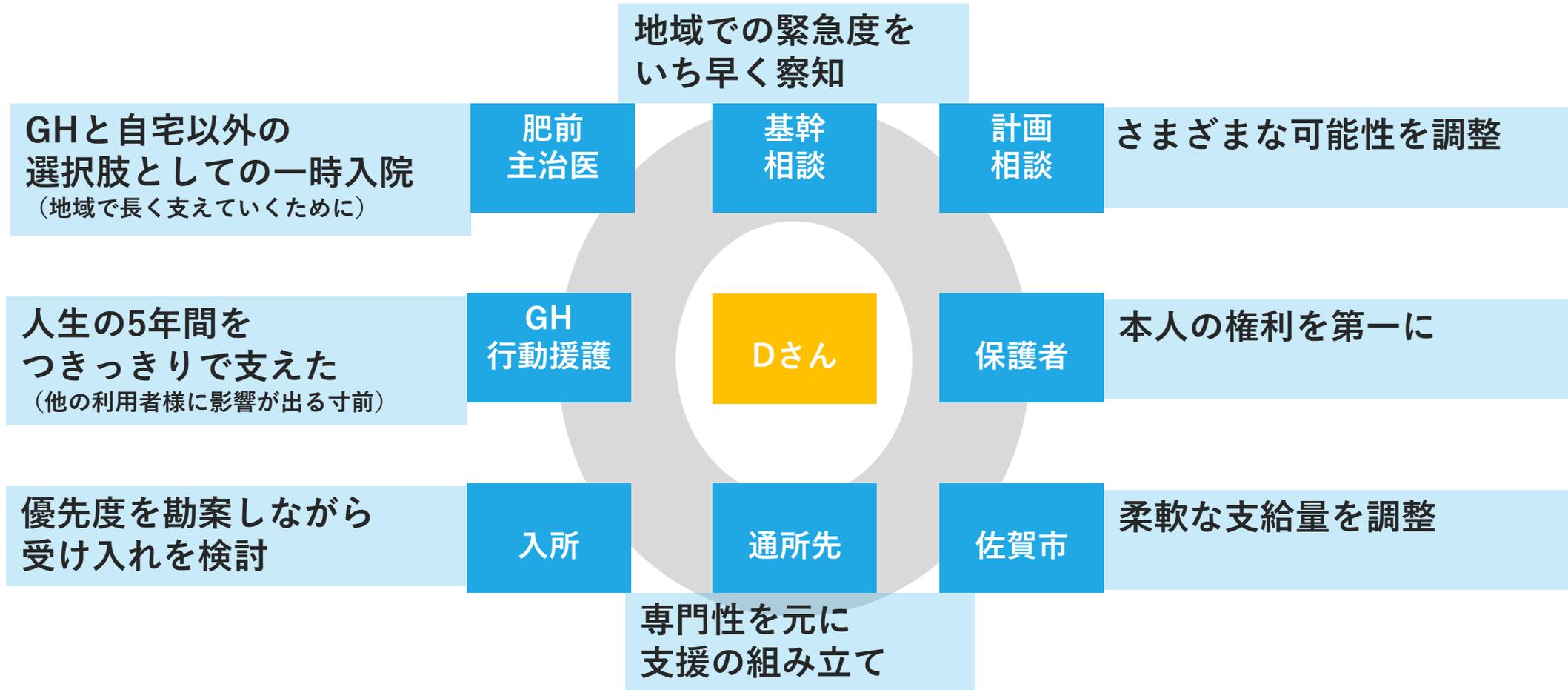
ネットワークのありがたさを知る

各界のスペシャリストたちが尽力

# GH開設から4年半 佐賀のネットワークに訴える

Dさんをめぐる動き

Dさんを中心にチーム佐賀が動いた



# GH開設から4年半 佐賀のネットワークに訴える

## ネットワークからの金言

Dさん 肥前精神医療センターへ入院（退所）  
強行の方の居住支援が存続していくために。  
改めて運営・支援を振り返ることに。

強度行動障害 は 誠心誠意寄り添うだけではダメ  
学ぶこと。気持ちだけではお互いに不幸になる

はるは、利用者さんを大事にする「気持ち」が強い  
しかし、仕組みづくりと勉強が足りない

家のような作りでは壊れるのは当たり前  
家庭的な雰囲気と頑丈な施設とのバランス

「このスタッフにしかできない」支援はかならずある  
「誰でもできる」シンプルな支援に組み立てられるか

支援も運営も自分たちでなんとかしようとした  
他を頼るハードルの高さが課題になっている

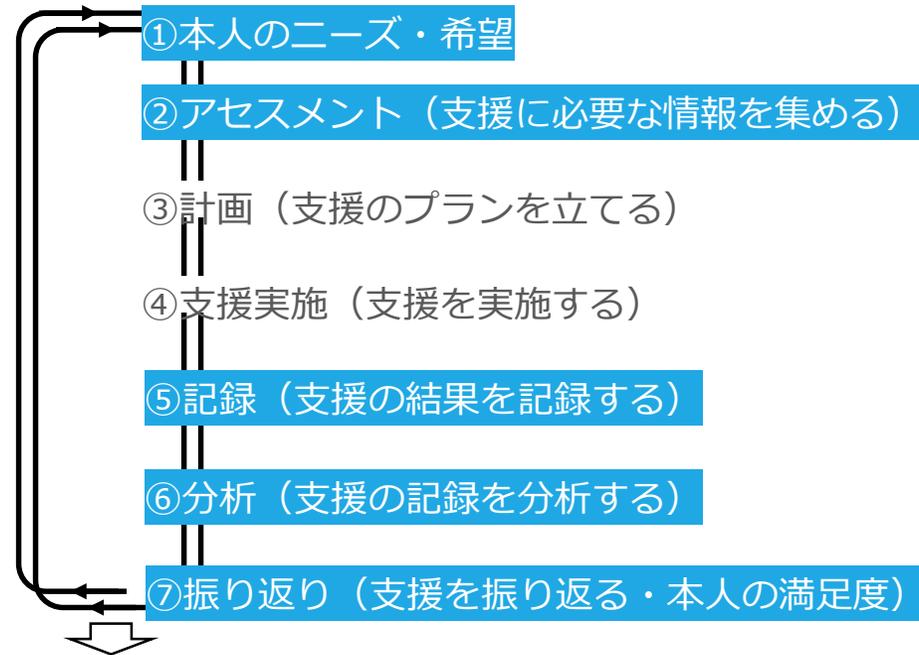
自法人だけで支える発想での限界

地域のネットワークへ 早く頼ることが大事

# GHの運営 何が大変にさせたのか

## ①支援を考える組織 変化に対応できる組織

### 【支援の進め方】



繰り返していくことで「本人の幸せに暮らす」につなげる。

③④の意識は強かったが、前後の番号にある本人を知るための取り組みが弱いことがわかった

### PDCA

支援の進め方のサイクルを回すこと  
分析 振り返り アセスメント 計画  
支援の実施

### 支援スキル

一人一人の特性を理解  
特性に配慮した生活環境を構築  
標準的な援助の手法を活用すること

### 学び

検討には職員の経験と学びが必要  
チームで支えるメンバーそれぞれの学びも必要  
検討には時間が必要

**変化に対応する意識・体制がより大事に**

入所3ヶ月で行動の変化が現れた時

まだ小さな変化のうちに検討対処できたらよかった。

# GHの運営 何が大変にさせたのか

## ②どれくらいの支援を目指すのか

### バランスの検討

崇高な、高い理想  
豊かさの追求

理念

居場所がある  
長く支え続けるために

大きな法人でバックアップ  
安心して挑戦できるサポートを構築

組織

小さな法人なりに  
できる範囲で支える

街中で家のように  
暮らせるように

建物

破壊の心配を防ぐために  
頑丈な作りにする

困難にチャレンジ  
本人の望むことを考えて丁寧に取り組む

支援度

誰でも続けられることを第一に  
シンプルに関わる

24時間365日  
日中、外出、通院全て支える

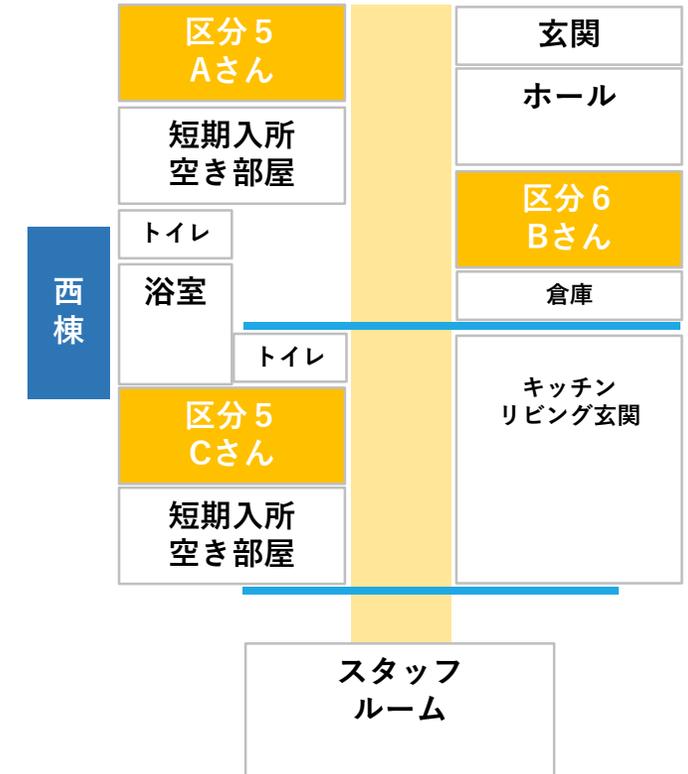
時間

週末は準備と休息のため休み  
外出、通院は分担

### 【Bさん】 障害支援区分6

行動として、泣く、他害（頭突き、噛む、叩く）、もの投げ、自傷  
泣くことについては不調時は毎日、他害は月1回、自傷は週に1回ほど。  
それらの行動が出ると1時間～2時間は見守りをしている。

- ・ コロナ禍で通所先の活動内容や支援者の動きが変わる
- ・ 同居のAさんの動きに過敏に反応される
- ・ 家庭環境の変化で帰省が困難になる
- ・ GH職員が特性を十分に理解できていない状態で、早まった配置をしてしまい間違った対応を生んでしまう



### 【Dさん】 障害支援区分6

行動として、大声、もの壊し、他害、自傷（眉毛抜き）などがある。頻度は週1～3回。

その都度、職員数名で1時間～4時間をかけて対応、見守り、片付け、次回のルール確認を行っている。

- ・ 幼少期から支援の手立てを考えており、安定して暮らすための生活のルールを複数構築
- ・ 本人の訴えに丁寧に答えていこうという支援方針 関係機関と共に共有
- ・ 特性理解が特に大事な方であり、自閉症支援を確実に学んだ上での支援が必要
- ・ 新しいスタッフが加入する際は、数多くの本人のルールを把握した上での対応が必要



# この経験から

## 課題1 365日24時間の重み

自宅での生活がままならない方もおり、入所施設の選択肢も難しく、GHで受け入れることに。

開設から365日24時間の意気込みでスタート。

強度行動障害を持った方8名中2名が週末帰省 ほか6名は週末GH在室。

常に利用者様が残られている状況が続く。

週7日、朝夕（休日は昼も）GHで支援を行うため、支援者を分散させている。

職員が集まる機会が無く、支援の統一のための取り組みの機会の捻出に苦心  
ヘルパーの数が地域に足りず、休日の日中もGHスタッフが支援を行う

- ・グループホームにしながら、他法人のショートステイが利用できる仕組みがほしい
- ・休日の日中に支える仕組み、担い手の確保（サービス、ヘルパー）
- ・休日の日中、GHで配置している分を算定したい

支援の分散  
お互いにレスパイト

支援が発生する時間  
を算定

GHだけで向き合おうとせず、日頃から複数機関で分散して支える仕組みが必要

## 課題2 行動援護時の車内の支援

休日にGHで過ごされている利用者様で、ドライブは1日の予定の中で大事な楽しみであり数少ない頼れる手段。利用者様の中には、公共交通機関の利用が難しい方や、徒歩での移動も難しい方も存在。また、車での移動中にも常にパニックに対して気を配る必要がある方も存在。

1日を落ち着いて過ごすために外出が有効な手段であるかたもいらっしゃる中で、行動援護として外出した場合、運転中は支援時間に算定はされない  
しかし、常に背後の利用者様の動きや気配を気かけながらの運転が発生している状況。  
また、費用面では車から降りないと費用が発生しないが、降車が難しく、ドライブ自体が大切な余暇になっている方もいらっしゃる状況。

- ・ 余暇のドライブの運転中も大事な支援  
運転中を行動援護対象にしてほしい

支援が発生する時間を算定

### 支援にあたる職員の体力と精神面

他害を受けた際やパニックに対応している際の不安はもちろんのこと、利用者様が安定しているときでも「支援を間違えたらいけない」「パニックになるのではないか」というプレッシャーが常にある。仕事の性質上、このような精神的な負担が当たり前なのだと頭では理解しているが、現状の負担に占める割合は大きく、体制やスキルが十分かの見極めが必要。

### パニック時の対応

配置されている職員だけでは十分な対応ができない

シフト外の職員が緊急的に時間外出勤や休日出勤をして対応を行っていた

→勤務がより不規則に。 人手による対応から設備やスキルで対応の必要性。

不規則勤務＋イレギュラー対応により睡眠や食事、体調面 の不安を抱えるスタッフが発生。

気力体力の管理も長い目で必要。根本的な支援環境へのアプローチが重要。

指導者の立場にある者の経験が浅く、困った時にすぐ解決策を考えられる職員が不在

→コンサルとの距離感・関係づくり

指導者役の成長

現場職員の成長

変えちゃいけない呪縛を解く

2021年よりコンサルを活用していく方針を立てて、複数依頼を実施

担当者、割ける時間、検討や宿題など、ペースや関わり方を探っている状態

(上司ではなく、中にいる職員でもない、けれども「何でも聞ける」にはまだ遠慮もある。でも困り感はある)

短期的には効果が見える場面も有      ペース配分を誤る→途端に検討が滞る

部署や担当スタッフの負荷も考慮しつつのスケジューリングが重要

研修も併せつつ、効果が出るには時間が必要なことを理解しながら、より良い関係を模索。

早い段階からコンサル講師などと繋がっておくことが、頼れる、聞けるにつながる

### 改修に向かうハードル

当該グループホームの構造上、他者からの影響を受けやすい利用者が、他者と同じユニットで生活をしていなければならない。また、支援のための壁やテレビを入れる頑丈な建具などといった備品購入、改修、修理の頻度が多く費用がかさむ。

入居後にわかる「ここに壁やドアがあれば」をいかに実現していくか。

### ほしいサポート

- ・ 成功/失敗事例
- ・ 費用負担のノウハウ
- ・ 強度行動障害を支えるためには構造化のための施設改修は必須→補助金等

もし次の機会があるならば、一人一つのトイレと玄関（個室化）したい。

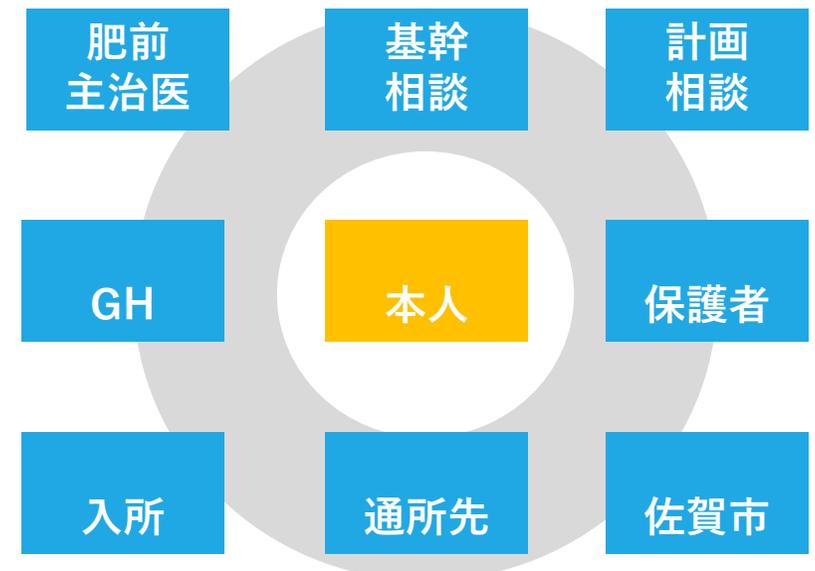
# 失敗から学ぶ

## 前向きなこと

- 1 設備投資を進めよう という方針を第一にした
- 2 短距離走から長距離走へ 兵站の視点で見直す
- 3 学ぶコンテンツは充実 繰り返し学ぶこと
- 4 コンサルの継続 検討・実施ができる体制をつくる
- 5 チーム佐賀で利用者様の人生を支える

準備をして日々向き合ってきたことで、

6名は現在もGHで受け止めることができている



佐賀県として強度行動障害への取り組みが始まっている

2022年3月

佐賀県議会 桃崎議員の質問



佐賀県知事

健康福祉部長

教育長

- ・ 本人の特性と環境に合った支援を推進すべき
- ・ 佐賀県は早期発見早期療養してきた
- ・ 強度行動障害についてはまだ十分ではない

**実態把握 人材育成 支援体制の構築** をすべきではないか

①利用者様に合わせたスキルを学ぶこと

②必要な建物を検討すること

③ネットワークで分散して支えること

①~③が頼れる、気づいてもらえる関係をつくること

安心して支援できる仕組みを整えて  
強度行動障害を持った方々を長く支えられるように

SOSは発信できない・SOSには気付かない

あの法人、あの部署、あの職員

大丈夫？と気がけられるネットワークを。